



Library Liébana

2024年12月度展示内容のお知らせ

【今月の展示写本】

- (1) ベアトゥス黙示録写本群のなかで10世紀後半に製作された5冊の写本。
- (2) 最初期の挿絵付き黙示録写本

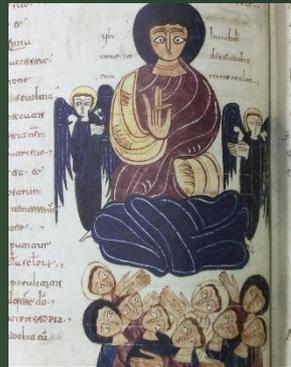
【10世紀後半のベアトゥス写本】



(ジローナ写本
975年製作)



(ウルジェイ写本
10世紀第4四半期)



(コゴーリャ写本
10世紀第4四半期
と
12世紀第1四半期)



(エスコリアル写本
10世紀末頃)

【最初期の挿絵付き黙示録写本】



(トリーア黙示録写本)
800年～825年頃



(ヴァランシエンヌ黙示録写本)
800年～825年頃

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。

愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
(西町5丁目北交差点の
外側階段を降りて下さい)
10:00～17:00

12月の開館日(予定) 水・木・金・日曜日
(HP、インスタで確認下さい)



Google Map



H.P.



Instagram



2024年12月							Library Liébana	
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	日曜日
25 (休)	26 (休)	27 10:00 -17:00	28 13:00 -17:00	29 10:00 -17:00	30 10:00 -17:00	31 10:00 -17:00	1 10:00 -17:00	2 10:00 -17:00
2 (休)	3 (休)	4 10:00 -17:00	5 13:00 -17:00	6 10:00 -17:00	7 13:00 -17:00	8 10:00 -17:00	9 10:00 -17:00	10 10:00 -17:00
9 (休)	10 (休)	11 10:00 -17:00	12 13:00 -17:00	13 10:00 -17:00	14 10:00 -17:00	15 10:00 -17:00	16 10:00 -17:00	17 10:00 -17:00
16 (休)	17 (休)	18 10:00 -17:00	19 13:00 -17:00	20 10:00 -17:00	21 10:00 -17:00	22 10:00 -17:00	23 10:00 -17:00	24 10:00 -17:00
23 (休)	24 (休)	25 13:00 -17:00	26 10:00 -17:00	27 13:00 -17:00	28 10:00 -17:00	29 10:00 -17:00	30 10:00 -17:00	31 10:00 -17:00
30 (休)	31 (休)	<small>12月5日(木)、12日(木)、19日(木)、25日(水)、26日(木)は13時開館、6日(金)、26日(木)は15時開館、22日(日)、28日(金)～1月5日(日)は撮影のみです。</small>						

ベアトゥスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトゥス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトゥス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち20写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

今月の展示写本

(1) 10世紀後半に製作されたベアトゥスの黙示録註解書写本

(2) 最初期の挿絵付き黙示録註解書写本

①【ジローナ写本】

114点の挿絵はほぼ完全な姿で残っており、写本の大きさも縦が約400mmもあり、12世紀以降に制作されたマンチェスター写本などを除けばウルジェイ写本と並び当時最大の写本でした。

挿絵は、イスラムの影響を受けたモサラベ風の建築物や服装などが多くみられる。幾何学的な形状、豊かな色、装飾された敷地、様式化された人物といった形に、イスラム美術と装飾的伝統が混ざって表現されている。

②【ウルジェイ写本】

10世紀後半にスペイン北部のアストゥリアス東部で作られた。ロマネスク様式のモサラベ風の90の彩色挿絵が描かれています。キリスト論の系譜の序文とダニエル書の解説とともに、黙示録に関するベアトゥスの註解テキストが書かれています。

章の見出しには、遊び心のある表示大文字が使用されます。これは、少し前のバルガード写本のスタイルと図像を参照しています。羊皮紙の質の悪さは、それが修道院での使用の為に作られたことを示唆しています

③【コゴーリャ写本】

途中まで10世紀後半に書かれ、その後200年近く中断された後12世紀第1四半期に制作が再開された写本。

そのために49点の挿絵がありますが、前半はモサラベ様式の画風で、後半はロマネスク様式となり、挿絵の画風が大きく変わっています。

レコンキスタの進展の影響で、モサラベ様式が薄れたのだと思います。

④【エスコリアル写本】

エスコリアル写本は950年頃にサン・ミジャン・デ・ラ・コドーリャ修道院で制作されました。ここではほぼ同時期にいくつものベアトゥス写本が制作されました。

エスコリアル写本の挿絵は、モーガン写本やジローナ写本と違い、青や赤はあまり使用されず、代わりに黄色や泥がかかった茶色・ダークグリーンに塗られ、それはのちのコゴーリャ写本にも受け継がれます。

特に人物の顔の描き方に特徴があり、鼻と片方の眉がほぼ直角の直線で描かれ、大きなしずく型の目が特徴です。

⑤【トリーア黙示録写本】

9世紀初期に制作された、残存する挿絵入り黙示録写本で一番古い写本。

テキストと挿絵は、見開き頁に互いに向き合って配され、一葉ごとに全頁大の挿絵が、fol.20vまでは裏葉に、fol. 21r以降は表葉に施されている。挿絵は全て赤枠で囲まれているのが特徴で、ペン画で書かれた挿絵は淡い赤・黄・紺で彩色されています。

⑥【ヴァランシエンヌ黙示録写本】

9世紀初頭(第1四半期)にフランスあるいはドイツで制作されたカロリングスタイルの黙示録写本。トリーア写本と共に、黙示録の完全なテキストと挿絵を伴う残存する最初期の彩色写本。

42葉の羊皮紙に36の全頁大挿絵がテキスト頁の向かいに描かれています。4騎士を描く挿絵のみ、見開きの2頁に半頁大の挿絵として横長に描かれています。